

研修報告

『2022年度 退院・療養継続支援研修①』

◆テーマ：『療養継続支援を考える』

◇日時：2022年9月17日（土）14：00～16：00 オンラインにて

◇内容：【講義】

■「在宅医療・介護連携推進事業の取り組みについて」

講師：名古屋市はち丸在宅支援センター 杉戸 順子 氏
名古屋市の在宅医療・介護連携事業の現状・取り組みについて理解を深めた。

■「療養継続支援～MSWに求められる視点～」

講師：江南厚生病院 外山 弘幸 氏
医療機関における、療養継続支援の実践を聴き、支援の具体的な取り組みについて確認した。

【グループワーク】

◇内容：講義の内容を踏まえて、療養継続支援についての参加者それぞれの課題や取り組みを共有し、自院や地域での取組みについて話し合う。

◇参加人数：14名

◇アンケート

コメント紹介◇ ～一部抜粋～

- 退院・療養継続支援を考えるうえで抱える課題はどの機関でも似たものがあることが分かった。地域柄により細かい違いはあれど、根本的な難しさや困難感を通ずるものがあり、自地域のみではないという安心感・共感を得られた。今回のように自地域のみで解決に苦慮している課題を共有し、他地域の意見を聞く機会を設けることで、自地域の取り組みの振り返りと他地域の取り組みの良さを吸収することでできるため、意見交換という意味あいを持つ研修に参加することも大切だと感じた。（総合 3～5年未満）
- 病院の医療ソーシャルワーカーをしていると、退院した患者さんのその後についてケアマネジャーなど地域の職種、機関につないで終わりになってしまうことがほとんどでした。退院した後も患者さんの生活は続いていくわけで、入院中の支援が地域での生活で生かされているのか分からない状況でした。今後、地域の生活が見える化されるようになるといいなと研修を通じて感じました。（一般・回復期・地域包括ケア 3～5年未満）
- 名古屋市医師会 はち丸在宅支援センターが MSW の支援をしている事を学びました。医療や介護資源の把握・在宅医療・介護連携推進会議の開催に関わっていることを初めて知りました。MSW の相談にも応じて頂き、支援を考えて頂ける窓口であることが分かりました。江南厚生病院は、急性期において地域をけん引している事を学び、非常に感銘を受けました。地域包括ケアを考えた時、役割よりも連携が重要と考えました。（総合 10年～15年未満）
- 外来で早期に介入する仕組みやケアマネとの情報共有の仕組みなど、地域の支援者と課題を解決するために今後の取り組むべきことが明確になりました。ありがとうございます。関係機関と役割をあらかじめ取り決めるなど院内システムの整備だけでは、療養継続支援が難しいことをあらためて認識しました。（総合 5年～10年未満）

退院・療養継続支援研修①について

退院・療養継続支援研修委員会 友松裕子

今年度から、「退院支援研修」は、「退院・療養継続支援研修」へ、名称を変更した。患者の医療・療養の支援は、病院完結から、地域完結へと移行している。MSWは、退院後の患者の生活・地域連携を視野に入れた支援をすることが重要である。

今回の研修では、前半は、名古屋市の在宅医療・介護連携推進事業について、理解を深め、後半では、医療機関の実践を通し、退院支援だけでなく、外来での取組み・地域連携について、知見を得ることができた。グループワークでは、参加者の施設の課題や取り組みについて情報共有した。県外からの参加者もあり、多様な実践について話し合うことができ、参加者からも好評であった。